

飯南町教育環境基本方針検討委員会 経過報告

【別紙】

回	第1回	日時	令和4年6月27日(月)17:00～
場所	来島交流センター	参加者	委員17名 事務局6名
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委嘱状交付 ・ 委員長・副委員長任命(作野広和委員長・信藤一郎副委員長に決定) ・ 飯南町総合振興計画の概要説明 ・ 飯南町教育行政方針の概要説明 ・ 児童・生徒数の今後の推移 ・ スケジュール ・ 意見交換 		
意見等(順不同)	<p>【委員の自己紹介を兼ねて飯南町の教育に関する自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に志々地区の児童数が減少していると感じる。 ・ 昔は地域で子育てをしてもらっていた。地域とのつながりが大事だ。 ・ 保小中高一貫教育の取組がどのようなものか、もっと知りたい。 ・ 児童・生徒数が減ると部活動にも影響が出るのではないか。 ・ 生命地域教育は、地域と密着したとても良い活動である。 ・ 教育環境は学校教育のみならず、家庭教育や社会教育も重要である。 ・ 小学校だけでなく、中学校もどうあるべきか議論する必要がある。 		



回	第2回	日時	令和4年8月30日(火)18:00～
場所	来島交流センター	参加者	委員15名 事務局6名
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保小中高一貫教育について(キャリアパスポート) ・ 教育現場の現状と課題 ・ 飯南町教育のあるべき方向性 		
意見等(順不同)	<p>【保小中高一貫教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの満足度、学校評価の結果について知りたい。 ・ キャリアパスポートについて詳しく知りたい。 ・ キャリアパスポートは進路実現のために活用できると期待している。 <p>【教育現場の現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式学級について、もっと知りたい。 <p>【飯南町教育のあるべき方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育や、地域と学校の連携についてもっと話し合いたい。 		

「地域と学校の未来シンポジウム」 講師:作野広和教授(島大教育学部)

回	第1回に併せ実施	日時	令和4年6月27日(月)19:00～
場所	来島交流センター	参加者	50名
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会テーマ「みんなでつくる地域と学校」 子どもをとりまく環境の変化、学校の適正規模 学校再編をめぐる近年の傾向、求められる持続可能社会 複式学級の学習、島根県における小学校再編の類型 県内の事例(邑南町・安来市・奥出雲町)、コミュニティスクール 地域学校協働活動、学校と地域との関係構築ステップ 保小中高一貫教育、飯南町において取り組みが必要な要素(定住・子育て・学校教育・社会教育・地域づくり) 		
意見等(順不同)	<p>【講演のアンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の規模もだが、教育の在り方を考えることが大切である。 ・ 学校と地域の関わりが大切だと思う。 ・ 地域で学校を支援し、学校が地域づくりの核となると良いと思う。 ・ 少人数だからこそ、できることがある(少人数の良さを活かしたい) ・ 大人の意識を変えていくことが大切。 ・ 社会教育、地域づくり、大人教育、定住者へのフォローなどが重要。 ・ 子どもを取り巻く社会に関心を持つべきである。 ・ 社会教育についてもう少し理解を深めたい。 ・ 今後の中学校の部活動をどうすべきか考えたい。 ・ 委員以外の声を広く聞く場を積極的に作ってほしい。 		



回	第3回	日時	令和4年11月16日(水)19:00～
場所	来島交流センター	参加者	委員14名 事務局6名
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価委員会による小・中・高の現状 ・ 教育を取り社会情勢(部活動の地域移行・コミュニティスクールについて) ・ 教育を取り巻く町の状況(複式学級、児童数について) ・ 今後議論すべき論点の整理 		
意見等(順不同)	<p>【学校評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの評価結果だけでなく数字には出てこない子どもや保護者の気持ちをくみ取ることが大事。 ・ 飯南高校は生徒の状況を把握しやすいのが小規模校のメリットである。 ・ 支援を要する児童生徒に、SSWやSCの相談体制や福祉事務所と連携した相談ネットワークの相談支援体制がある。 <p>【部活動の地域移行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域によって実情は様々であり、保護者からも多くの意見が出ている。 ・ 少子化で今後、団体競技の部活動が難しくなってくる。 ・ 先生方の働き方改革も重要だが、子どもたちと先生の関わりも大切であり、様々な視点から考えていく必要がある。 <p>【コミュニティ・スクール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と地域住民の関わりは飯南町は進んでおり、すでにコミュニティスクールのような動きがあるように思う。 <p>【複式学級】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式学級には一長一短があることがよく分かった。 ・ 学校が統廃合されれば単式は維持できるが、一方で通学については課題が残ると思う。 ・ 3学期には学校訪問を計画し、実際の現場を見てみたい。 		

回	学校視察	日時	令和5年2月10日(金)8:30~
場所	町内各小中学校	参加者	委員10名 事務局4名
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校視察 学校より説明 教育課程(複式学級等) 教職員の配置 学校施設 地域との関わり 児童・生徒の様子 	 	
意見等 (順不同)	<p>【教育課程について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動(異学年の交流活動)を大切にしている学校があり、いろいろな学年の友達と関わることが大切だと思った。 中学校の部活動について、単独チームでの活動が今後ますます困難になることが予想される。 <p>【教職員の配置について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単式、複式を繰り返す学年があることで、教職員の数にも影響が出てくるということで、学校の負担が増すことが心配だ。 不登校傾向の児童生徒の個別の支援もあり、サポーターの先生方も町として活用しておられることが分かった。 <p>【学校施設について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成に建てられた頓原小学校、来島小学校はきれいに感じた。 頓原小学校は、廊下を出るとすぐに交流スペースや読書スペースがあり、子どもたちにとっていい環境になっていると思う。 学校施設の老朽化が気になる。特に志々小学校の老朽化が気になった。 <p>【地域との関わりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> どの学校でも公民館と連携しており、公民館を中心にいろいろな人との関わりがあることで「ふるさと教育」が充実している。 Iターンの子供生徒が増えているということだった。学校があって、住宅があって、地域づくり・まちづくりと教育の関係性もあると感じた。 <p>【児童・生徒の様子について】</p> <ul style="list-style-type: none"> どの学校の児童生徒も落ち着いて学習に取り組んでいる姿を見ることができてよかった。 小学生は小学生らしく明るく元気であり、中学生は中学生らしく落ち着いて学習していると感じた。 少人数では多様な意見に触れる機会がないという課題に対してオンライン等での交流学习を実施しておられて、素晴らしいと感じた。 ICT教育を授業だけでなく、不登校の児童生徒への対応にも活用されていることに驚いた。 <p>【視察した授業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習が丁寧に指導されていると感じた。(昔とは違ったスタイルに驚いた。) グループでの学習やICT機器を用いた授業などどの授業にも工夫があった。 複式学級での学びは、自分たちで学習を進める場面があり、主体的な学習につながっていると感じる。一方で音楽や体育などある程度人数が必要な教科については、2つの学年で行う苦勞などもあると思う。 複式学級の授業を進めるには、教員の指導力もかなり必要だと思った。 <p>【その他(全体を通して)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人数が少ないからこそ地域と密着した様々な体験活動ができる良さがある。 今後の教育にとって、何がベストなのか難しい選択だと感じる。 	    	
回	第4回	日時	令和5年2月16日(木)18:00~
場所	来島交流センター	参加者	委員14名 事務局5名
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> これまでの検討委員会の経過報告 学校視察についての報告 答申の全体構成(案)について 今後の進め方(スケジュール)について まとめ(作野委員長) 		
意見等 (順不同)	<p>【経過報告について】</p> <ul style="list-style-type: none"> この検討委員会での協議内容は、保護者、自治会文書、広報等で周知することで多くの方に現在の状況を知っていただきたい。 <p>【学校視察について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校視察等をふまえた上で、地域として何ができるのか考えていきたい。 地域住民から、子どもや保護者の名前が分からなくなったと聞くこともあり、地域と学校のつながりの重要性を再認識した。 学校における働き方改革の実情についても教えていただきたい。 <p>【答申の全体構成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育についても答申に加えてほしい。家庭教育が子どもの育ちの根本にあると思う。 人口減少や少子化など心配な面の教育環境の在り方への答申ではなく、学校と地域とのつながりなど良い面も盛り込んだ答申にする必要があるのではないか。 飯南町としての今後の教育環境やまちづくりの戦略が見える答申になるとよい。 <p>○今後のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> R4年度からR5年度で、「教育環境基本方針を」作成する予定。 その後、R6年度からR7年度で「基本計画」を策定し、R8年度以降に「実施計画」となると、社会情勢や教育環境が現在と変わってくることが予想されるため、もう少しスピーディーに進める必要がある。 <p>○まとめ(作野委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 飯南町として定住とのセットで考えていく必要がある。 例えば飯南高校の生徒が飯南町に帰ってきて活躍するような流れにつながる教育について考えることが望ましい。 中学校をどうしていくのか考えていく必要もある。 中高の連携については、今でも授業や部活動等で連携しておられるが、さらに中高の連携を強化する必要があると感じる。 飯南町の教育がさらにバージョンアップするために今後も協議をしていきたい。 		